

BOOKS OF THE YEAR 2011 Vol.1

この1年間でみなさんはどんな本に巡り合いましたか? 南部町の図書館職員が2回にわたって、今年読んだ本の中から、特に心に残った一冊を紹介! 未読の方はぜひ読んでみてください。【()内は職員のペンネームです】

『パンツのはきかた』



岸田今日子 / 講談社

こぶたちゃんがパンツをはきます。「はじめに かたあし いれるでしょ。」ひとつひとつたしかめながら……やっとはけた〜! ……ん?!
ノリノリのうたもあわせてお楽しみください。(ペリー)

『まほうよりもすごいもの』



さえぐさひろこ / 金の星社

まほうつかいのジョジョさんは、まほうを使いません。まほうつかいなのに、どうして?
ある日、ジョジョさんの仲良し動物たちはまほうよりもすごいものに気づきます。それは…
…。読んだ後に、勇気が出る1冊です。(シヨパン)

『偉大なる、しゅららぼん』



まきめまなぶ / 集英社

琵琶湖畔の街に古くから住む、不思議な「力」を持つ一族の話です。誰もがタイトルを見た時から気になる言葉―「しゅららぼん」。何だろうと思って、それを知りたくて読んでいくと、まさか?それが!こんなことだったとは…。肩の力を抜いて読んでください。(勝海舟)

『テストに出ない 危機回避マニュアル』

危機回避マニュアル研究会 / T O ブックス



シロアリやゴキブリの対処法などの実用的なものから、ワニや妖怪に襲われた時の対処法など、使うときがあるのか?と思うようなものまで様々…。でも覚えておいて損はない! ? そんな他には載っていない、思わず笑ってしまいそうになるマニュアル本です。(藤原行成)

『イブと小さいクリスティーネ』



H・C・アンデルセン原作
赤木かん子 / フェリシモ出版

“こんなアンデルセン知ってた?”という見出し・紹介文をみて、手にした一冊です。
「愛とは何か」「本当のしあわせとは何か」ということがベースにあるのではないかと感じました。たくさんものが溢れているなかであって、本当に大切なものとは何かと自然に考えられる童話です。(毛利元就)

『乞食の子』



らいとんじん
頼東進 / 小学館

父は2歳で視力を失った。その父と重度知的障害のある母のもとに生まれた作者。家族はいつしか10人を超えた。家族の食は、長男である作者の肩にかかった。
これはどん底から幸せをつかんだ一人の男の半生である。台湾の東進の生き様は、日本の「あしん」以上かもしれない。(清少納言)

★こちらに掲載の本はすべて町立図書館に所蔵しています。貸出中の本は予約ができますので、お気軽に図書館員にお尋ねください。(注: ご紹介した本は今年出版されたものに限りません)

12月の行政書士無料相談会

日時 / 12月21日(水) 午前10時~午後1時
場所 / 法勝寺図書館2階
相談内容 / 相続・遺産・悪徳商法被害など
※予約不要、秘密厳守
主催・共催 / 鳥取県行政書士会・南部町立図書館

12月のおはなし会

【天萬図書館おはなしコーナー】

☆12月25日(日)午前10時~
クリスマスの本、手あそび、
パネルシアターなど

※おはなし会のスタッフ募集中! 読み聞かせやわらべうたに興味のある方はカウンターまでお気軽にどうぞ。